



## シリコンバレーのプログラミング学校

「Make School」？ 聞き慣れない言葉ですね。実は、アプリケーション開発をはじめとするプログラミングの養成スクールとオンライン講座を米国で展開している会社です。このスクール・講座の修了者は、マサチューセッツ工科大、スタンフォード大など、米国のトップ大学への合格者を輩出しているだけでなく、IT 企業における即戦力として、米国内にとどまらず世界的に高い評価を得ています。また、2016年3月、米ホワイトハウスから、地域や所得にかかわらず誰もがインターネットを活用できることを目的とした、「ConnectALL」というイニシアティブ内における Make School 社との連携が発表されるなど、ますますその地位を向上させています。

その Make School と皆さんご存じの「Z会」が今春提携し、双方のノウハウを活かし、日本でのプログラミング分野教育を始めることになりました。まずは、Make School 社が米国で実施している Summer Academy のコースを、この夏に日本国内で開催する予定です。中高生を対象としています。（詳細はZ会のホームページと教室に掲示されるプリントを見て下さい。）プログラミング教育は、2020年度開始の「新学習指導要領」の目玉の一つとなっています。既に小学校でも導入され始めていますが、小中高の必修科目となることが検討されています。

さて、スクール開設に先立ち、Make School 社のCEOが来日します。その際、海城学園を訪問し、本校の生徒とプログラミングについての話をしたいという意向が寄せられました。この企画は決して Make School の宣伝ではありません。日本の中高生のプログラミングに対する意識や考え方を知りたいということと、プログラミングに関する疑問に答えようというのが趣旨です。勿論英語（英検準2級程度の力があれば十分とのこと）での話となりますが、通訳もつくようです。シリコンバレーの最先端の動きを聞くことができる絶好の機会です。学年は問いません。興味関心のある生徒はこの企画に是非参加してみませんか。下記の要領で実施する予定ですので、参加希望者は早めにグローバル教育部まで来て下さい。

日時	6月14日(火)	15時30分～17時
場所	未定(後日連絡)	
出席者	「Make School」CEO Jeremy Rossmann	
テーマ	プログラミングを知ろう	
定員	20名程度	
参加申込締め切り	A4程度の用紙に、学年・組・氏名を記入し、グローバル教育部に提出 6月9日(木)昼休み(期日が迫っています)	
その他	当日は通訳もつきます 取材が入り、写真撮影が行われる場合もありますので、その点は了解しておいて下さい。	



○氏名：

Jeremy Rossmann (ジェレミー・ロスマン)

・プログラミングスクール創業者

※以下のサイトが、経歴等わかりやすいと思いますので、ご確認ください。

<https://jp.linkedin.com/in/jeremy-rossmann-5b109130>

【職歴】

Make School Co-Founder

Make School 2010年3月 - 現在(6年4ヶ月)

Game Designer

GAMBIT [Singapore-MIT GAMBIT Game Lab] 2009年9月 - 2009年12月(4ヶ月)

【学歴】

Massachusetts Institute of Technology

Massachusetts Institute of Technology

Joint Major in Comparative Media Studies and Mathematics with Computer Science, Film, Games, Math, Computer Science

2009年 - 2019年

Completed courses in Toy Design, Game Design, Film History, Intermediate Mandarin Chinese, Introductory Russian, Real Analysis, and Functional Analysis.

## 東京工業大学入学式より

日本の大学が急速に変わろうとしています。そのコンセプトは、簡潔に言うならば「世界に伍する」ということでしょうか。「高大接続」ということで、大学と高等学校のコラボレーション授業も様々な大学で行われています。本校からは2年連続、医科歯科大学と連携し、今年は医科歯科大の学生と英語を学ぶ企画が実践されています。

さて、4月4日に行われた東京工業大学の入学式がマスコミでも取り上げられました。三島良道学長が入学式辞を英語で行ったことと、そしてその内容が注目されているのです。スピーチの英文と日本語訳が、東京工業大学のホームページに掲載されているので、是非見て下さい。三島学長の意気込みの伝わりどころを、ここに一部転載しておきます。

(冒頭部分省略)

Building upon such a fine tradition of excellence, the Institute is now entering an exciting stage with the implementation of a new education system. You will be the first students learning under this new system. Equipped with a high-quality education, you will be free to deepen your studies in a flexible manner according to your desires.

(中略)

Tokyo Tech's new education system is based on an outstanding curriculum that allows you to understand the excellence and perceive the depth of science and technology. You can focus on the field that interests you, discover and develop a specialization, and acquire other capabilities that will help you to achieve your goals. Throughout this process, it is also important to make good friends and to communicate closely with your classmates, fellow club members, and academic advisors. Human bonds and communication are indispensable as you move toward your goals, as they help you to clarify issues, rebuild your ideas, and find new directions.

Finally, I would like to highlight the importance of diversity to which Tokyo Tech attaches high value. Diversity leads to flexibility and strength of mind, both of which are essential in preparing you for your role in society. One way to cultivate diversity is to interact with people overseas. If possible, I recommend that you travel overseas during your studies. Tokyo Tech offers a wide range of study-abroad programs. A one-month summer school experience at an overseas university is also available. Participation in one of these programs as early as possible will open your eyes to a new world. Your stage is not limited to Japan. Do not hesitate to see the world as you shape your own



future. Be positive. Take chances. If you are motivated, the Institute will fully support you.  
(末尾部分省略)

(日本語訳)

このような伝統的な教育を大事にしつつ、東工大の教育システムはまさに今日から新しく生まれ変わります。皆さんはその意味で東工大にとって歴史に残る新入生となります。新しい教育システムでは、これまで以上に教育の質を高めかつ国際性を持たせ、皆さんが着実に、しかも自分の希望に合わせて柔軟に学びを深めていくことができます。

次に、学びと同じように大切なこととお話します。

今日スタートする新しい教育システムにおいては、皆さんが様々な科学・技術の素晴らしさ、楽しさ、奥深さに触れながら、しっかりと理工系基礎を身につけつつ、科学・技術を専門とする人材にとって必要な教養と語学力を身につけられるカリキュラムを配置しています。そして、徐々に希望する分野を明確にしていき、将来自分が果たすべき役割、目標や夢を実現するために必要な専門力と人間力を身につけるために、様々な挑戦をしながら進めるカリキュラムです。そのような学びの過程において大切なのは、かけがえのない仲間を作ることです。切磋琢磨する同期入学の仲間、そして、先輩や先生方、そして課外活動などで生活を共にする仲間などです。この仲間とのコミュニケーションが、大学の学びを支える大きな役割を果たすはずで、機会あるごとに自分の考えを話し、相手の考えを聞くことで、自分の夢や目標がわからなくなったとき、迷ったとき、自分の考えを広げ、新しい道を教えてくれることでしょう。

最後に、東工大が大事にしている多様性について、お話します。多様性とは今や世界的に重要なコンセプトであり、多様性が生み出す心のしなやかさや強さは、社会で活躍する際に必須です。その多様性を育む方法の一つに、海外との交流があります。皆さんには在学中にかならず一度は海外経験をしてほしいと思います。留学は大変なことだと思うかもしれませんが、しかし、東工大には様々な海外経験のためのプログラム、すなわち Study Abroad プログラムが用意されています。夏休みに1か月程度海外の大学のサマースクールに参加するなど、できるだけ早い時期に短期間の海外経験をすることで新しい世界が見えることは間違いありません。皆さんの将来の舞台は世界です。是非挑戦してください。皆さんには、将来の自分の姿を描き、その目標のために自分の力をどこまで伸ばすことができるか、限界を作らず挑戦する志を持ってほしいと思います。そのような気概を持つ皆さんを、東工大は最高の教育を用意して、全力で応援します。

さて、今ここに東京工業大学学長の式辞の一部を掲載しましたが、インターネットを利用すれば様々な演説を読んだり聞いたりすることができます。その中でも今話題なのは、オバマ大統領の広島での演説です。先日、推敲を繰り返して完成度を上げていった過程も報道されました。是非、読んだり聞いたりしてみたいかと思いますが、冒頭部分だけを掲載しておきます。

Seventy-one years ago, on a bright, cloudless morning, death fell from the sky and the world was changed. A flash of light and a wall of fire destroyed a city and demonstrated that mankind possessed the means to destroy itself.

Why do we come to this place, to Hiroshima? We come to ponder a terrible force unleashed in a not so distant past. We come to mourn the dead, including over 100,000 in Japanese men, women and children; thousands of Koreans; a dozen Americans held prisoner. Their souls speak to us. They ask us to look inward, to take stock of who we are and what we might become.

It is not the fact of war that sets Hiroshima apart. Artifacts tell us that violent conflict appeared with the very first man. Our early ancestors, having learned to make blades from flint and spears from wood, used these tools not just for hunting, but against their own kind. On every continent, the history of civilization is filled with war, whether driven by scarcity of grain or hunger for gold; compelled by

nationalist fervor or religious zeal. Empires have risen and fallen. Peoples have been subjugated and liberated. And at each juncture, innocents have suffered, a countless toll, their names forgotten by time.

The World War that reached its brutal end in Hiroshima and Nagasaki was fought among the wealthiest and most powerful of nations. Their civilizations had given the world great cities and magnificent art. Their thinkers had advanced ideas of justice and harmony and truth. And yet, the war grew out of the same base instinct for domination or conquest that had caused conflicts among the simplest tribes; an old pattern amplified by new capabilities and without new constraints. In the span of a few years, some 60 million people would die — men, women, children no different than us, shot, beaten, marched, bombed, jailed, starved, gassed to death.

There are many sites around the world that chronicle this war — memorials that tell stories of courage and heroism; graves and empty camps that echo of unspeakable depravity. Yet in the image of a mushroom cloud that rose into these skies, we are most starkly reminded of humanity's core contradiction; how the very spark that marks us as a species — our thoughts, our imagination, our language, our tool-making, our ability to set ourselves apart from nature and bend it to our will — those very things also give us the capacity for unmatched destruction.

71年前、明るく、雲一つない晴れ渡った朝、死が空から降り、世界が変わってしまいました。閃光（せんこう）と炎の壁が都市を破壊し、人類が自らを破滅させる手段を手にしたことを示したのです。

なぜ私たちはここ、広島を訪れるのか。私たちはそう遠くない過去に解き放たれた恐ろしい力に思いをはせるために訪れるのです。10万人を超す日本人の男女そして子どもたち、何千人もの朝鮮人、十数人の米国人捕虜を含む死者を悼むために訪れるのです。彼らの魂が私たちに語りかけます。私たちに内省し、私たちが何者なのか、これからどのような存在になりえるのかをよく考えるように求めているのです。

広島を際立たせるのは戦争の事実ではありません。暴力を伴う紛争は太古の昔からあったことが古代の遺物からわかります。火打ち石から刃を作り、木からやりをつくることを学んだ私たちの祖先は、これらの道具を狩猟だけでなく、人間に対しても使ったのです。食糧不足、富への渴望、国家主義的な熱烈な思いや宗教的熱情に突き動かされ、世界のどの大陸でも文明の歴史は戦争にあふれています。いくつもの帝国の興亡があり、人々は服従を強いられたり、解放されたりしました。それぞれの時期に罪なき人たちが犠牲になり、その名は時がたつにつれて忘れられていきました。

広島と長崎で残酷な終結を迎えることになった世界大戦は、最も豊かで、最も力の強い国々の間で戦われました。それらの国の文明は世界に偉大な都市や素晴らしい芸術をもたらしました。思想家たちは正義や調和、真実に関する考えを生み出してきました。しかし戦争は、最も単純な部族間の紛争の原因となった、支配や征服をしたいという本能と同じ本能から生まれてきたのです。新たな能力によってその古いパターンが増幅され、ついには新たな制約がなくなってしまったのです。

数年の間で6千万もの人たちが亡くなりました。男性、女性、子ども、私たちが何ら変わりのない人たちが、撃たれ、殴られ、行進させられ、爆撃され、投獄され、飢えやガス室で死んだのです。この戦争を記録する場所が世界に数多くあります。勇気や英雄主義の物語を語る記念碑、筆舌に尽くしがたい悪行を思い起こさせる墓地や無人の収容所です。

しかし、この空に立ち上ったキノコ雲のイメージのなかで最も、私たちは人間性の中にある根本的な矛盾を突きつけられます。私たちが人類たらしめているもの、私たちの考えや想像力、言語、道具をつくる能力、自然を自らと区別して自らの意思のために変化させる能力といったものこそが、とてつもない破壊能力を私たち自身にもたらすのです。（「朝日新聞デジタル」より一部転載）